

2020年度(2021年3月期) 第3四半期決算説明資料

IHI

2021年2月9日

株式会社 IHI



目次

1. 2020年度第3四半期 連結決算

連結決算の概要（連結受注高，連結損益計算書）	4
報告セグメント別内訳.....	5
営業外損益.....	10
特別損益.....	11
連結貸借対照表.....	12
補足資料.....	13

2. 2020年度 連結業績見通し

通期業績見通し.....	16
報告セグメント別内訳.....	19

3. 報告セグメント別の概況

資源・エネルギー・環境.....	23
社会基盤・海洋.....	25
産業システム・汎用機械.....	27
航空・宇宙・防衛.....	29
< 参考資料 >	31

※ 各項目の金額は億円未満を切り捨てて表示しています。

1. 2020年度第3四半期 連結決算

1. 2020年度第3四半期 連結決算 連結決算の概要(連結受注高, 連結損益計算書)

日本基準

IHI

'20年度3Q 売上平均レート(米ドル) 106.36円

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q	増減
受注高	8,767	6,844	▲ 1,922
売上高	9,220	▲451 7,668	▲ 1,551
営業利益	272	▲11 ▲ 25	▲ 297
経常利益	86	14 ▲ 104	▲ 190
税金等調整前 四半期純利益	93	▲ 87	▲ 181
親会社株主に帰属する 四半期純利益	▲ 17	▲ 115	▲ 97

‘20年度3Qの売上高, 営業利益, 経常利益の左肩の数値は, 収益認識会計基準(※)適用の影響を示している。

※収益認識会計基準: 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)

‘20年度末の国際財務報告基準(IFRS)適用を見据え, 民間向け航空エンジンの受注高の算出方法を変更している。

1. 2020年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(受注高・受注残高)

日本基準

IHI

(億円)

	受注高			受注残高		
	'19年度3Q	'20年度3Q	増減	'19年度末	'20年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,437	1,543	▲ 894	5,212	4,538	▲ 674
社会基盤・海洋	1,034	992	▲ 41	2,296	2,164	▲ 131
産業システム・汎用機械	3,286	2,531	▲ 755	1,908	1,640	▲ 267
航空・宇宙・防衛 ※	1,853	1,586	▲ 266	4,936	2,280	▲ 2,656
報告セグメント計	8,611	6,653	▲ 1,958	14,354	10,624	▲ 3,729
その他	492	566	73	266	413	147
調整額	▲ 337	▲ 375	▲ 38	-	-	-
合計	8,767	6,844	▲ 1,922	14,620	11,037	▲ 3,582
海外受注高・受注残高	3,927	2,582	▲ 1,345	6,055	3,065	▲ 2,989
海外受注高・受注残高比率	45%	38%	▲ 7%	41%	28%	▲ 13%

※ '20年度末のIFRS適用を見据え、民間向け航空エンジンの受注高・受注残高の算出方法を変更している。
この変更により、'20年度期首の受注残高を2,690億円減額している。

1. 2020年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(売上高・営業利益)

日本基準

IHI

(億円)

	売上高			営業利益		
	'19年度3Q	'20年度3Q	増減	'19年度3Q	'20年度3Q	増減
資源・エネルギー・環境	2,224	2,241 ⁷⁹	16	▲17	108 ⁶	126
社会基盤・海洋	1,027	1,042 ³¹	15	80	98 ^{▲4}	18
産業システム・汎用機械	2,882	2,721 ⁶⁰	▲160	51	69 ⁴	17
航空・宇宙・防衛	2,946	1,570 ^{▲591}	▲1,375	204	▲281 ^{▲16}	▲486
報告セグメント計	9,081	7,576 ^{▲419}	▲1,504	318	▲5 ^{▲10}	▲323
その他	449	387 ^{▲31}	▲61	15	9 ⁰	▲5
調整額	▲310	▲295	14	▲61	▲29	31
合計	9,220	7,668 ^{▲451}	▲1,551	272	▲25 ^{▲11}	▲297

海外売上高	4,597	2,994	▲1,603
海外売上高比率	50%	39%	▲11%

‘20年度3Qの売上高、営業利益の左肩の数値は、収益認識会計基準適用の影響を示している。

1. 2020年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(営業利益の前期比増減要因)

日本基準

IHI

(億円)

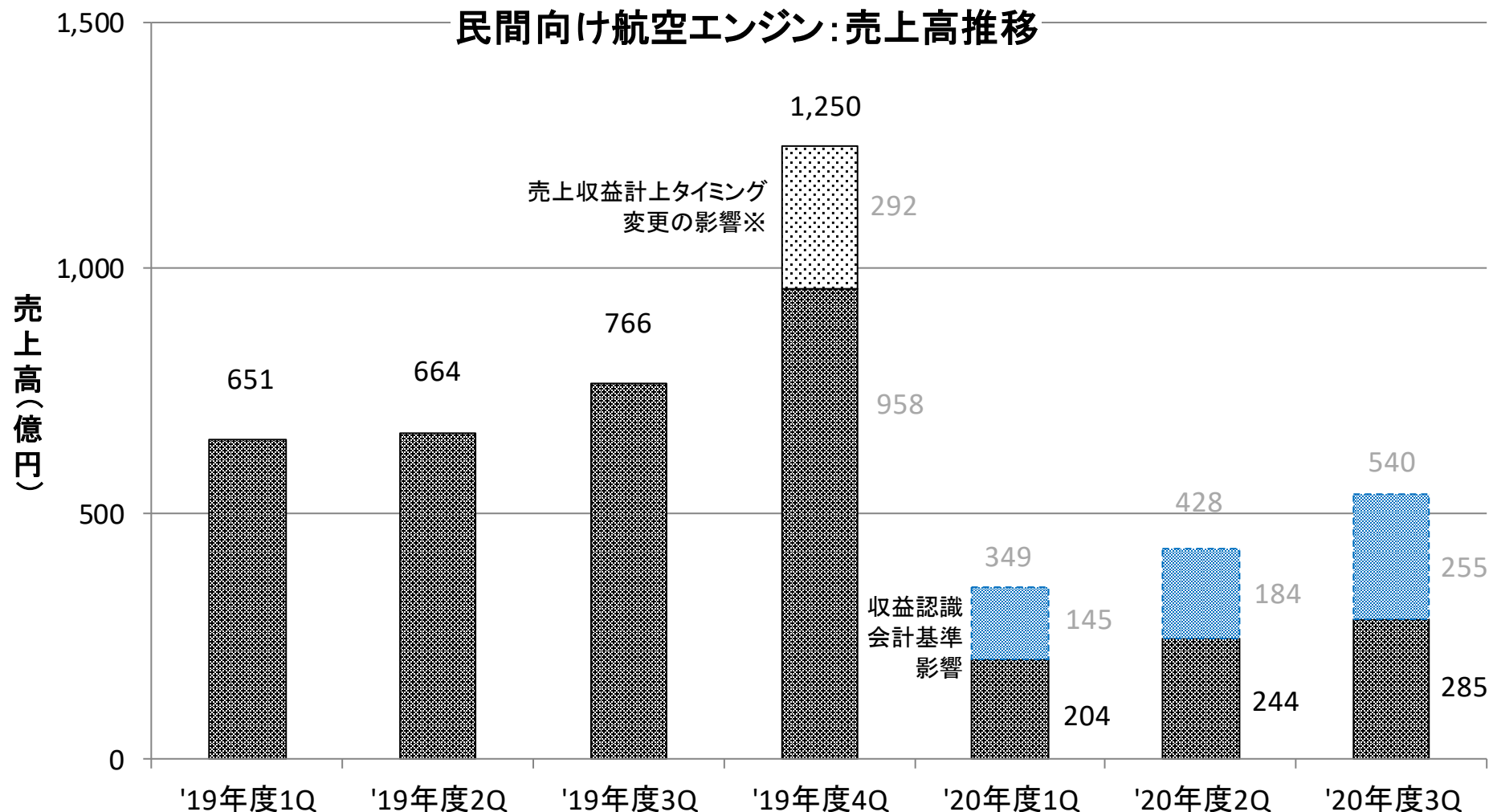
	新型コロナ ウイルス感染 拡大の影響	売上高の 増減	工事採算 の変動	為替の変動	販管費の 変動	収益認識 会計基準 適用の影響	合計
資源・エネルギー・環境		35	61	▲ 3	27	6	126
社会基盤・海洋		15	3		5	▲ 4	18
産業システム・汎用機械	▲ 20	11			23	4	17
航空・宇宙・防衛	▲ 490	▲ 43	7	▲ 8	64	▲ 16	▲ 486
報告セグメント計	▲ 510	18	71	▲ 12	120	▲ 10	▲ 323
その他		▲ 5	▲ 8		8	0	▲ 5
調整額					31		31
合計	▲ 510	13	63	▲ 12	160	▲ 11	▲ 297

報告セグメント別・要因別の数値の合計と合計欄の数値は四捨五入の関係で一致しない場合がある。

1. 2020年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

日本基準

IHI



- ・前年同期に対してエンジン及びスペアパーツの販売減少により累計36.7%の減収
- ・回復基調にあったが、昨年11月以降は新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴い回復が鈍化

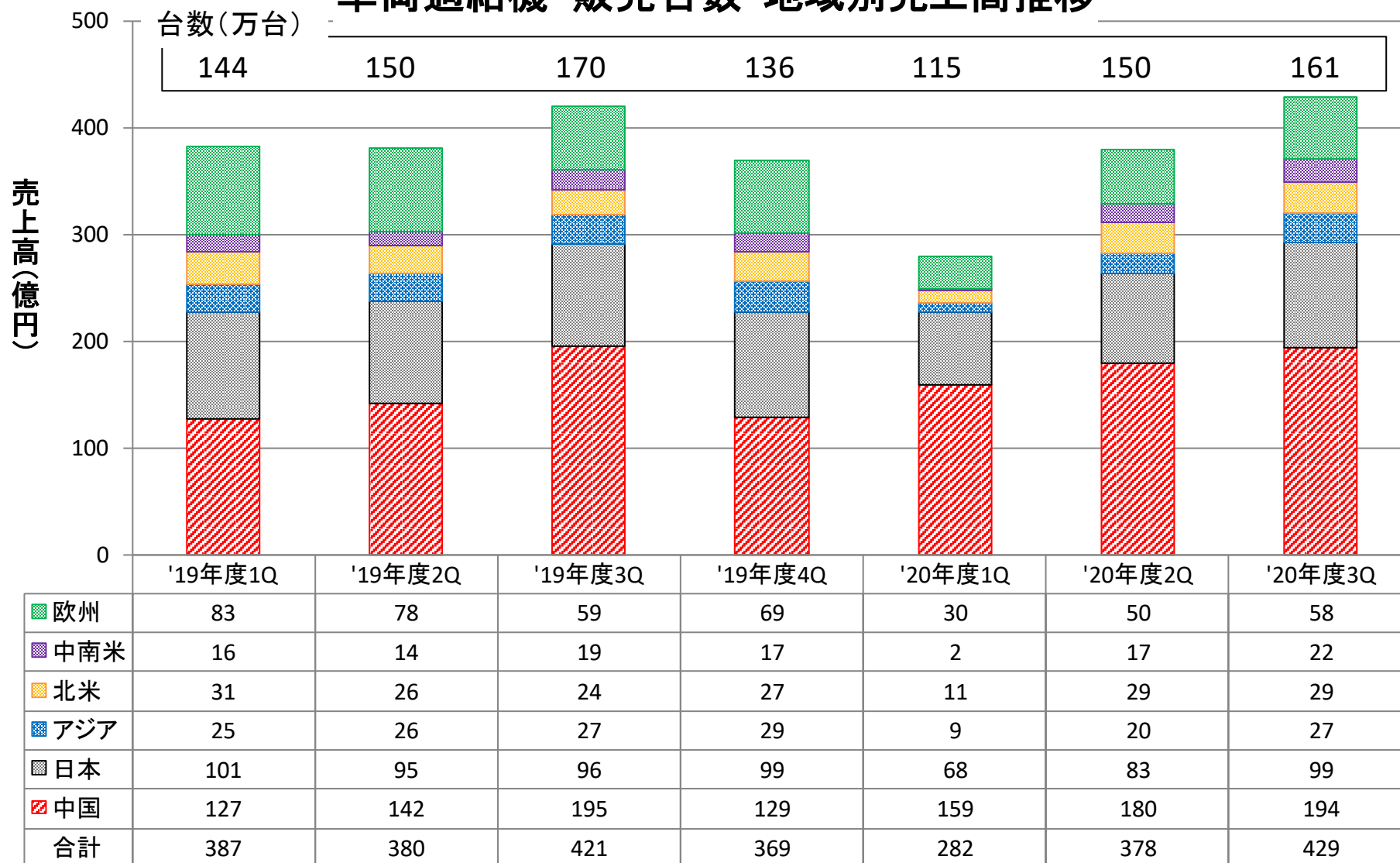
※民間向け航空エンジンについて、1か月遅れで認識していた売上収益を同月に計上することに変更した影響

1. 2020年度第3四半期 連結決算 報告セグメント別内訳(新型コロナウイルス感染拡大の影響)

日本基準

IHI

車両過給機 販売台数・地域別売上高推移



中国に続き、他地域も前年同期の水準まで回復

1. 2020年度第3四半期 連結決算 営業外損益

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q	増 減
金融収支	▲ 15	▲ 12	3
持分法による投資損益	▲ 92	▲ 8	83
為替差損益	▲ 14	▲ 38	▲ 24
その他	▲ 64	▲ 19	44
営業外損益	▲ 186	▲ 79	107

期末日レートの変動(米ドル) '19年度3Q ▲1.43円 (期首110.99円→3Q末109.56円)
'20年度3Q ▲5.36円 (期首108.83円→3Q末103.47円)

1. 2020年度第3四半期 連結決算 特別損益

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q	増減
固定資産売却益	43	16	▲ 26
保険差益	11	—	▲ 11
特別利益	54	16	▲ 37
減損損失	▲ 1	0	0
投資有価証券評価損	▲ 46	—	46
特別損失	▲ 47	0	47
特別損益	6	16	9

1. 2020年度第3四半期 連結決算 連結貸借対照表

日本基準

IHI

(億円)

	'19年度末	'20年度3Q末	増減
資産合計	17,407	17,140	▲ 267
(うち 現預金)	(1,472)	(961)	(▲ 511)
(うち 売上債権, 契約資産)	(4,038)	(4,072)	(33)
(うち 棚卸資産)	(4,455)	(4,547)	(91)
負債合計	13,870	13,470	▲ 399
(うち 仕入債務)	(2,625)	(2,186)	(▲ 439)
(うち 契約負債)	(1,517)	(1,552)	(34)
(うち 有利子負債残高)	(4,881)	(5,762)	(880)
純資産合計	3,537	3,669	132
株主資本	3,292	3,424	132
その他の包括利益累計額	▲ 28	▲ 26	1
非支配株主持分等	273	271	▲ 2
負債・純資産合計	17,407	17,140	▲ 267
D/Eレシオ (※)	1.38倍	1.57倍	0.19倍
自己資本比率	18.7%	19.8%	1.1%

有利子負債残高には、リース債務残高('19年度末:273億円, '20年度3Q末:303億円)を含んでいる。

(※) D/Eレシオ=有利子負債/純資産

収益認識会計基準適用により、期首の株主資本(利益剰余金)が274億円増加

(1) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q	増減
営業キャッシュ・フロー	▲ 674	▲ 787	▲ 113
投資キャッシュ・フロー	▲ 490	▲ 446	44
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 1,164	▲ 1,234	▲ 69
財務キャッシュ・フロー	800	718	▲ 82

(2) 研究開発費・設備投資額・減価償却費

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q
研究開発費	238	174
設備投資額	524	271
減価償却費	388	430

※

設備投資額、減価償却費は、有形固定資産及びソフトウェアに係る金額を示している。

※設備投資、研究開発の一部凍結・抑制により減少

(3) 海外売上高

(億円)

	'19年度3Q	'20年度3Q
アジア	900	838
中国	693	757
北米	2,388	919
中南米	67	54
欧州	504	373
その他	42	52
合計	4,597	2,994
海外売上高比率	50%	39%

※

※主として民間向け航空エンジンの減少

2. 2020年度 連結業績見通し

2. 2020年度 連結業績見通し 通期業績見通し

IFRS

IHI

- 2020年度末決算より、IFRSを任意適用するため、通期業績見通しはIFRSに基づき作成している。

前提為替レート 米ドル 105円
(第4四半期) ユーロ 120円

	IFRS				(億円)
	'19年度 実績 ※2	'20年度 前回見通し A ※3	'20年度 今回見通し B	増減 (B-A)	(参考) 日本基準 '20年度 今回見通し
受注高	12,800	11,000	10,600	▲400	10,600
売上収益	12,590	11,500	11,100	▲400	11,100
営業利益※1	480	200	200	0	50
経常利益	-	-	-	-	▲80
税引前利益	290	100	100	0	-
親会社の所有者に 帰属する当期利益	70	10	10	0	0

(参考) 為替感応度(為替相場の1円の変動により、営業利益に与える影響額)：米ドル 2億円

※1 IFRSベースの営業利益＝売上総利益－販管費＋(日本基準における)金融損益以外の営業外損益・特別損益

※2 IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

※3 前回見通しは、2020年11月10日公表の業績予想数値

2. 2020年度 連結業績見通し

売上収益・営業利益 前回見通しからの増減要因

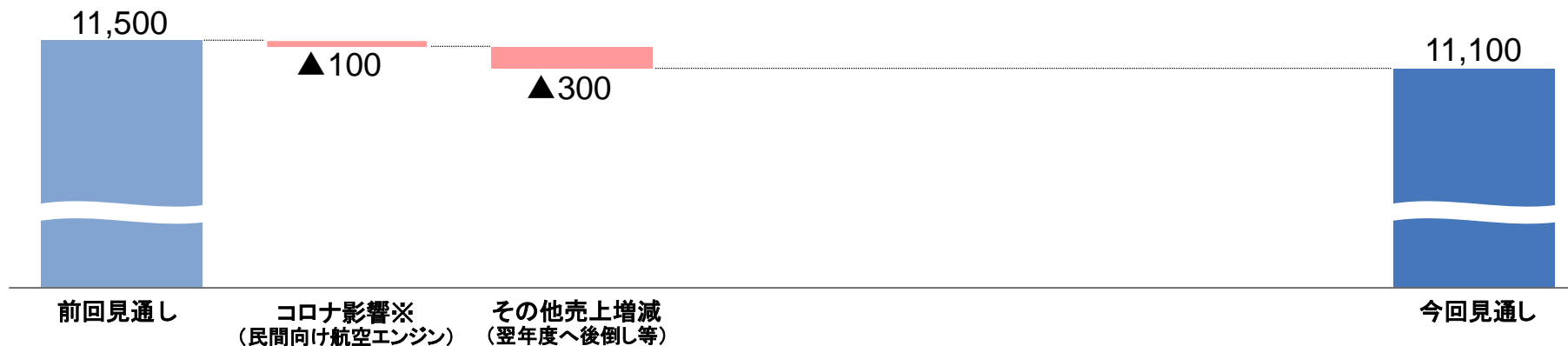
IFRS

IHI

- 新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響により、民間向け航空エンジンで減収・減益となるが、販管費削減等及びリスクバッファの一部取崩しにより、営業利益の見通しは維持。

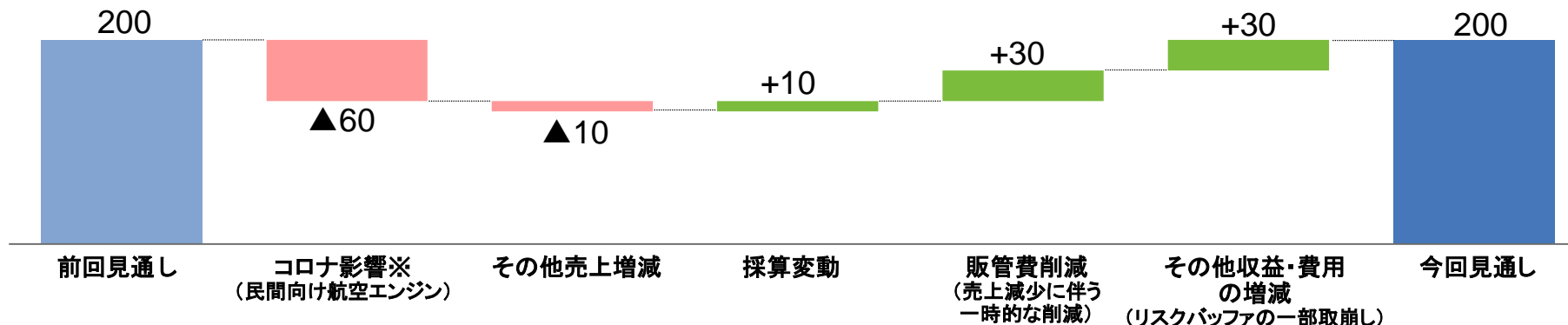
(1) 売上収益

(億円)



(2) 営業利益

(億円)



新型コロナウイルス感染拡大の影響の内訳は次ページ参照

事業環境の変化(民間向け航空エンジン)

前回見通し(2Q決算発表時点)

今回見通し(3Q決算発表時点)

中小型機

- 各国国内線等の短距離路線の旅客需要は、年度末にかけて緩やかに回復。



- 新型コロナウイルス感染症の再拡大により、11月以降の旅客需要回復が低迷。
- 欧州等の追加移動制限の影響もあり、当年度の残り3カ月(1-3月)の需要回復は鈍化する見込み。

大型機

- 国際線の長距離路線の旅客需要は、低迷が続く。



(大きな変更なし)

- 採算性の高いアフターマーケット(スペアパーツ)の販売が、前回見通し時点の想定よりもさらに減少する見込み。

航空・宇宙・防衛セグメント 通期業績見通し

(億円)

	前回見通し	今回見通し	増減
売上収益	2,500	2,400	▲100
営業利益	▲340	▲400	▲60

2. 2020年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(受注高通期見通し)

IFRS

IHI

(億円)

	IFRS				(参考) 日本基準
	'19年度 実績※1	'20年度 前回見通し A ※2	'20年度 今回見通し B	増減 (B-A)	'20年度 今回見通し
資源・エネルギー・環境	3,170	3,200	2,900	▲300	2,900
社会基盤・海洋	1,970	1,400	1,400	0	1,400
産業システム・汎用機械	4,200	3,700	3,700	0	3,700
航空・宇宙・防衛	3,220	※3 2,500	※3 2,400	▲100	2,400
報告セグメント計	12,560	10,800	10,400	▲400	10,400
その他	730	700	700	0	700
調整額	▲490	▲500	▲500	0	▲500
合計	12,800	11,000	10,600	▲400	10,600

※1 IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

※2 前回見通しは、2020年11月10日公表の業績予想数値

※3 '20年度より民間向け航空エンジンの受注高の算出方法を見直している。

なお、'19年度の受注高へ与える影響は軽微である。

2. 2020年度 連結業績見通し 報告セグメント別内訳(売上収益・営業利益通期見通し)

IFRS

IHI

(億円)

	IFRS								(参考) 日本基準	
	売上収益				営業利益				売上高	営業利益
	'19年度 実績※1	'20年度 前回見通し A ※2	'20年度 今回見通し B	増減 (B-A)	'19年度 実績※1	'20年度 前回見通し A ※2	'20年度 今回見通し B	増減 (B-A)	'20年度 今回見通し	'20年度 今回見通し
資源・エネルギー ・環境	3,250	3,500	3,300	▲200	40	160	160	0	3,300	160
社会基盤・海洋	1,490	1,500	1,500	0	130	150	150	0	1,500	160
産業システム ・汎用機械	4,040	3,800	3,800	0	130	120	120	0	3,800	110
航空・宇宙・防衛	3,650	2,500	2,400	▲100	210	▲340	▲400	▲60	2,400	▲390
報告セグメント計	12,430	11,300	11,000	▲300	510	90	30	▲60	11,000	40
その他	670	700	600	▲100	70	30	30	0	600	30
調整額	▲510	▲500	▲500	0	▲100	80	140	60	▲500	▲20
合計	12,590	11,500	11,100	▲400	480	200	200	0	11,100	50

※1 IFRSベースの前年度実績は監査法人による監査前の試算であるため概数表示

※2 前回見通しは、2020年11月10日公表の業績予想数値

2. 2020年度 連結業績見通し

報告セグメント別内訳(前回見通しからの営業利益の増減要因)

IFRS

IHI

(億円)

	新型コロナ ウイルス感染 拡大の影響	売上収益の 増減	工事採算 の変動	販管費の 変動	その他損益 の増減	合 計
資源・エネルギー・環境		▲ 10		10		0
社会基盤・海洋						0
産業システム・汎用機械						0
航空・宇宙・防衛	▲ 60					▲ 60
報告セグメント計	▲ 60	▲ 10	0	10	0	▲ 60
そ の 他						0
調 整 額			10	20	(※) 30	60
合 計	▲ 60	▲ 10	10	30	30	0

(※)業績変動リスクに備えたバッファの一部取り崩し

3. 報告セグメント別の概況

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

日本基準

IFRS

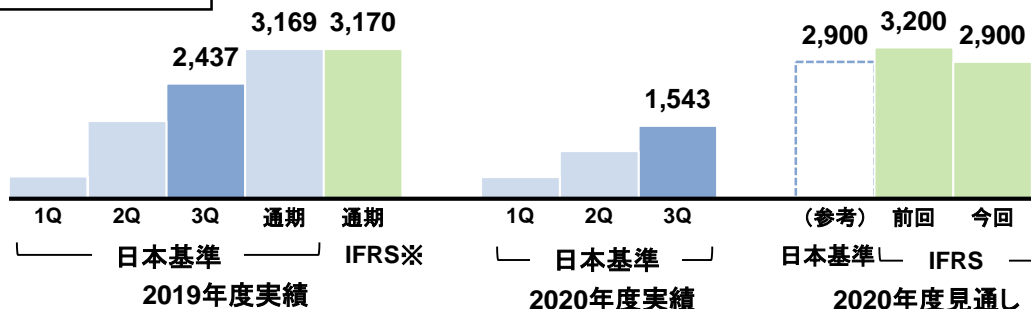
IHI

(億円/各期の金額は累計)

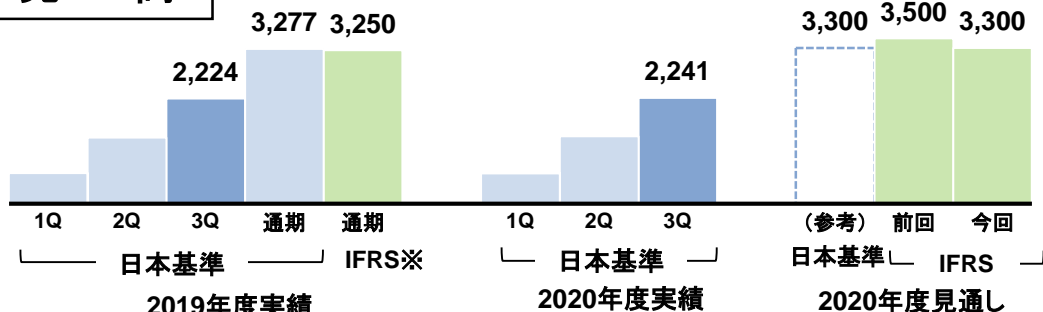
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業:原動機, ボイラ, プラント, 原子力

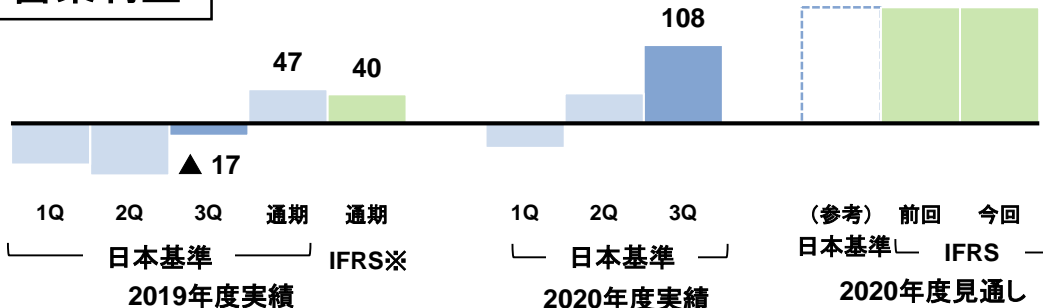
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

ボイラで前年同期に大型工事を受注した反動で減少。

【売上高】

プラントで減収となったものの、ボイラで増収。

【営業利益】

ボイラのライフサイクル事業の増収による増益及び、前年同期の原動機、ボイラでの採算性低下の収束により、黒字に転換。

通期見通し(対前回見通し)

IFRS

- ボイラや原動機, プラントで受注が減少。
- 原動機やプラントなどで減収となるが, ボイラや原子力のライフサイクル事業の増益及び販管費の削減により, 営業利益の見通しは変更なし。

<うち, 新型コロナウイルス感染拡大の影響>

- 東南アジアを拠点とする一部の子会社で, 売上収益が翌期以降へ後ろ倒しとなり, 減収。

3. 報告セグメント別の概況 資源・エネルギー・環境

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高									
	'19年度		'20年度		'19年度					'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
原 動 機	826	830	700	700	179	360	534	861	830	188	383	611	900	900
ボ イ ラ	956	960	570	570	168	448	702	984	950	200	519	827	1,090	1,090
プ ラ ント	321	320	500	500	138	266	392	564	570	95	202	268	380	380
原 子 力	362	360	450	450	48	89	135	279	320	52	100	181	320	320

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

日本基準

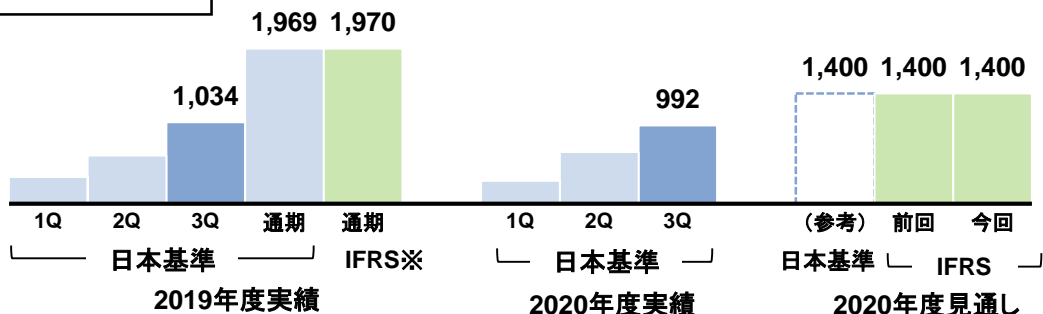
IFRS

IHI

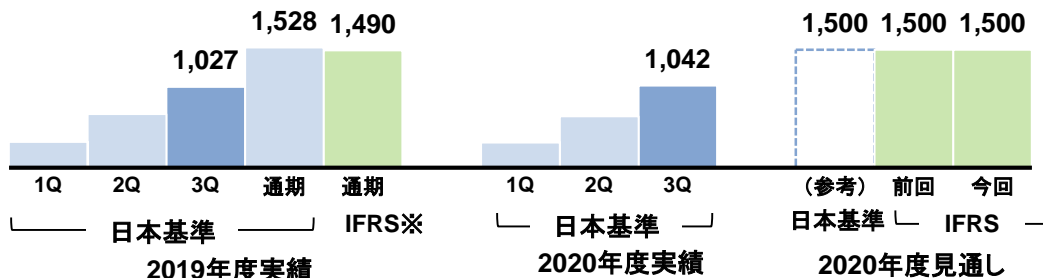
(億円/各期の金額は累計)
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業: 橋梁・水門, 交通システム, シールドシステム,
コンクリート建材, 都市開発

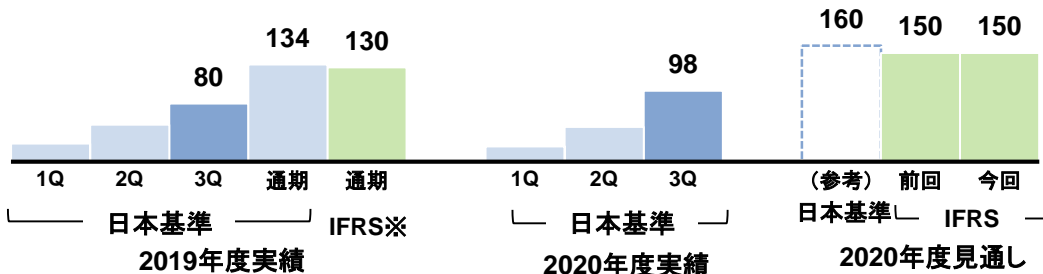
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

都市開発で増加したものの、交通システム, シールドシステムで減少。

【売上高】

橋梁・水門で前年同期に大型案件を引き渡した影響で減収となったものの、都市開発等で増収。

【営業利益】

橋梁・水門で減収に伴い減益になったものの、都市開発の増収により増益。

通期見通し(対前回見通し)

IFRS

■ 受注高, 売上収益, 営業利益いずれも変更なし。

3. 報告セグメント別の概況 社会基盤・海洋

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高									
	'19年度		'20年度		'19年度					'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
橋梁・水門	1,111	1,110	640	640	192	382	575	835	800	151	312	494	720	720
シールドシステム	236	240	170	170	46	97	120	155	160	35	91	123	180	180
都市開発	165	170	230	230	39	79	118	165	170	66	114	192	230	230

※「都市開発」の豊洲地区関連情報は、P37、P38の＜参考資料＞を参照

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

日本基準

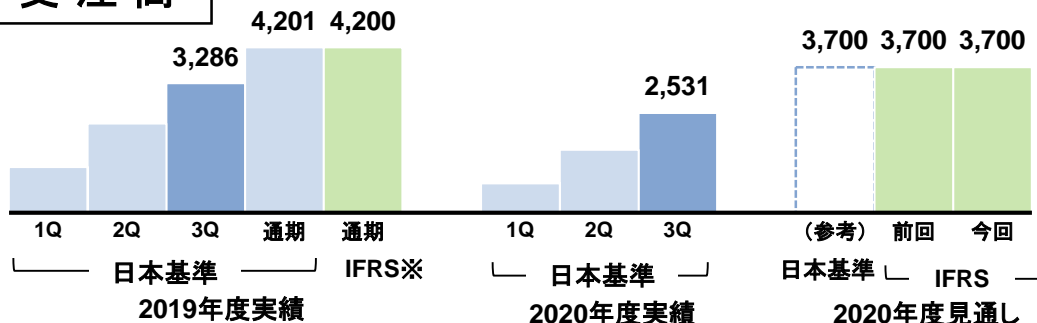
IFRS

IHI

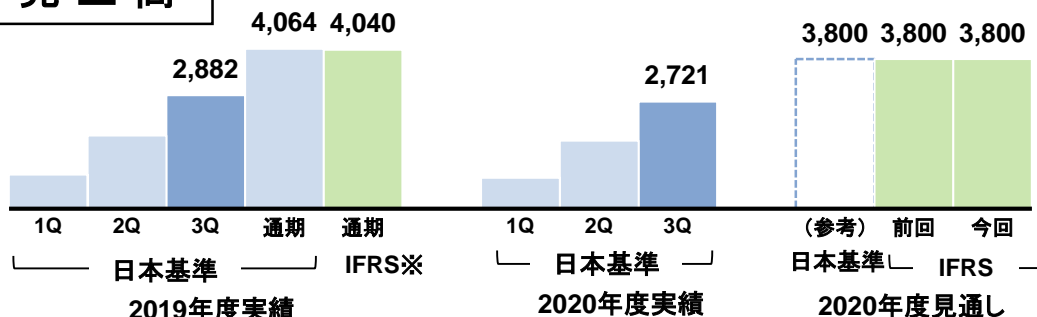
(億円/各期の金額は累計)
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業:車両過給機, パーキング, 回転機械, 熱・表面処理,
運搬機械, 物流・産業システム

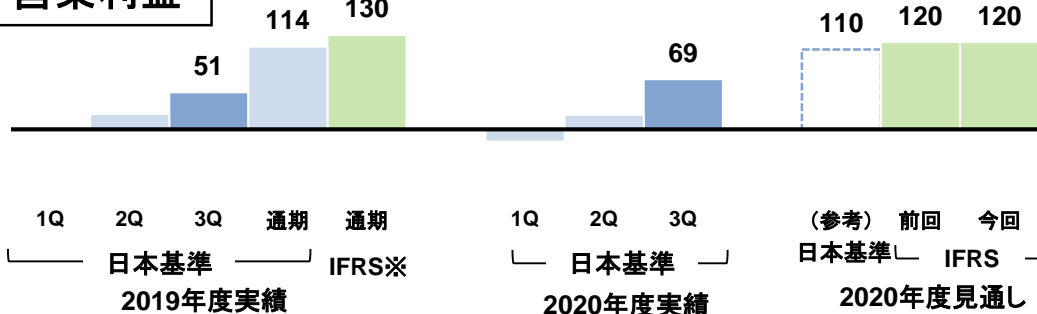
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

前年同期に大型案件の受注があった運搬機械に加えて、車両過給機や熱・表面処理で減少。

【売上高】

運搬機械で増収になったものの、車両過給機や熱・表面処理で減収。

【営業利益】

運搬機械で増収により増益, 熱・表面処理で減収により減益。車両過給機は減収となったものの, 固定費削減等により増益。

通期見通し(対前回見通し)

IFRS

■ 受注高, 売上収益, 営業利益いずれも変更なし。

3. 報告セグメント別の概況 産業システム・汎用機械

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高									
	'19年度		'20年度		'19年度					'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
車両過給機	1,555	1,560	1,420	1,420	387	767	1,188	1,557	1,540	282	660	1,089	1,420	1,420
パーキング	534	530	490	490	100	220	339	530	530	94	205	339	470	470
回転機械	513	510	450	450	104	211	335	490	480	103	230	360	500	500
熱・表面処理	322	320	300	300	98	197	291	377	380	67	137	214	310	310
運搬機械	612	610	300	300	37	92	177	290	310	102	200	291	420	420

※「車両過給機」の詳細は、P36の〈参考資料〉を参照

〈車両過給機の販売台数〉

(万台)

販売年度	3Q累計	通期
'19年度	464	600
'20年度	426	540

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

日本基準

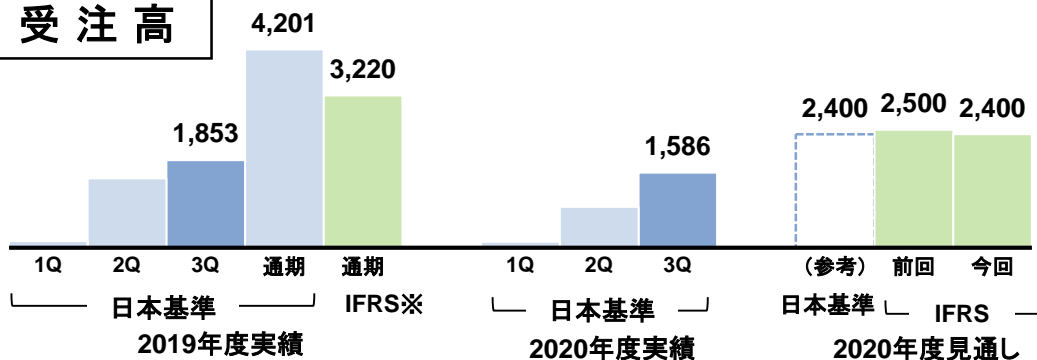
IFRS

IHI

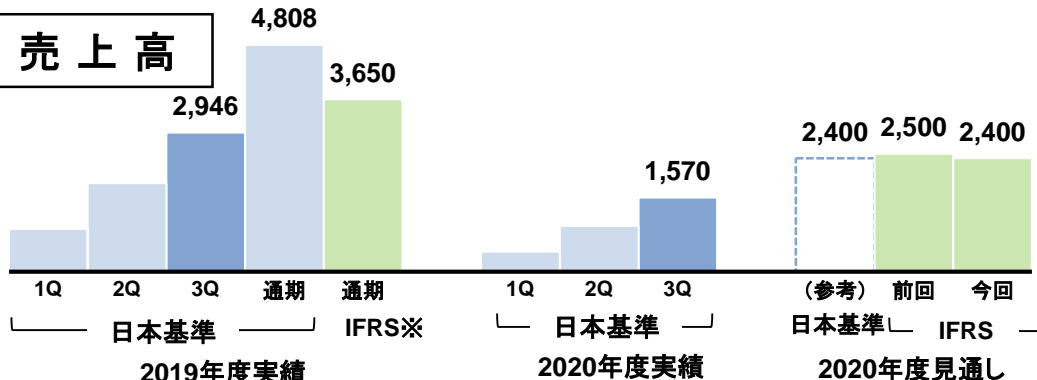
(億円/各期の金額は累計)
(参考)日本基準ベースの2020年度見通し

主要事業: 航空エンジン, ロケットシステム・宇宙利用, 防衛機器システム

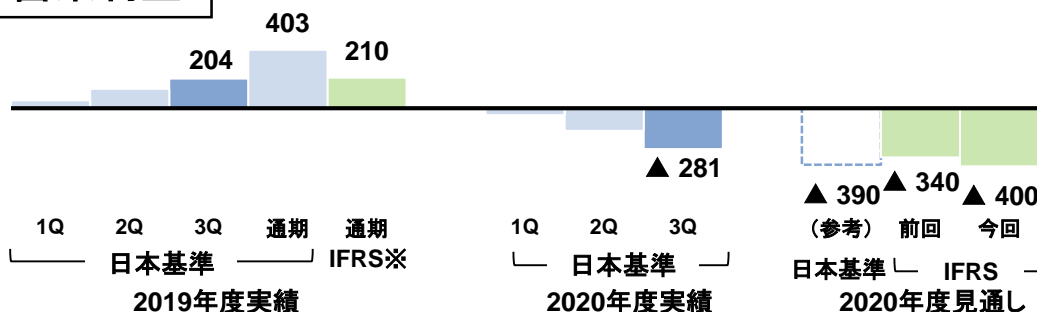
受注高



売上高



営業利益



実績(対前年同期)

日本基準

【受注高】

民間向け航空エンジンで減少。

【売上高】

新型コロナウイルス感染拡大の影響による旅客需要の減少, 収益認識会計基準適用により, 民間向け航空エンジンで大幅減収。

【営業利益】

固定費の削減等の効果は出ているものの, 民間向け航空エンジンでの採算性の高いスペアパーツの販売減少による影響が大きく, 営業赤字。

通期見通し(対前回見通し)

IFRS

- 新型コロナウイルス感染症の再拡大に伴って, 旅客需要の回復が遅れている影響により, 民間向け航空エンジンで減収。
- 民間向け航空エンジンのスペアパーツの販売減少により, 減益。

3. 報告セグメント別の概況 航空・宇宙・防衛

日本基準

IFRS

IHI

(億円)

	受注高				売上高									
	'19年度		'20年度		'19年度					'20年度				
	通期 日本基準	通期 IFRS	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS	1Q	2Q累計	3Q累計	通期 日本基準	通期 IFRS
民間向け 航空エンジン	3,082	2,180	900	900	651	1,315	2,081	3,331	2,180	204	448	733	900	900
(参考)収益認識会計基準適用影響を除いた実績:										349	777	1,317		

※「民間向け航空エンジン」の詳細は、P35の<参考資料>を参照

<民間向け航空エンジンの販売台数>

(台)

販売年度	3Q累計	通期
'19年度	1,061	1,571
'20年度	646	850

<参考資料>

- 業績の推移
- 当第3四半期のトピックス
- 航空エンジン
- 車両過給機
- 都市開発

	日本基準 2016年度	日本基準 2017年度	日本基準 2018年度	日本基準 2019年度	日本基準 2020/3Q	IFRS 2020年度 (見通し)
売上高	14,683億円	15,903億円	14,834億円	13,865億円	7,668億円	11,100億円
営業利益率 営業利益	3.2% 473億円	4.5% 722億円	5.6% 824億円	4.4% 607億円	▲0.3% ▲25億円	1.8% 200億円
経常利益	220億円	214億円	657億円	322億円	▲104億円	
親会社株主に 帰属する当期純利益	52億円	82億円	398億円	128億円	▲115億円	10億円
ROIC (※1)	5.0%	7.7%	8.7%	5.7%		
CCC (※2)	87日	83日	97日	120日		
D/Eレシオ (※3)	1.10倍	0.92倍	0.93倍	1.38倍	1.57倍	
ROE (※4)	1.6%	2.6%	11.8%	3.8%		
配当	0円/株	中間3円/株 期末30円/株 (期末は、株式併合 後)	70円/株 (中間30円, 期末40円)	50円/株 (中間30円, 期末20円)	0円/株	0円/株
為替レート	108.27円/\$	111.00円/\$	111.09円/\$	109.16円/\$	106.36円/\$	

※1：ROIC(投下資本利益率)＝税引後(営業利益＋受取利息・配当金)／(自己資本＋有利子負債)

※2：CCC＝運転資本／売上高×365日

※3：D/Eレシオ＝有利子負債／純資産

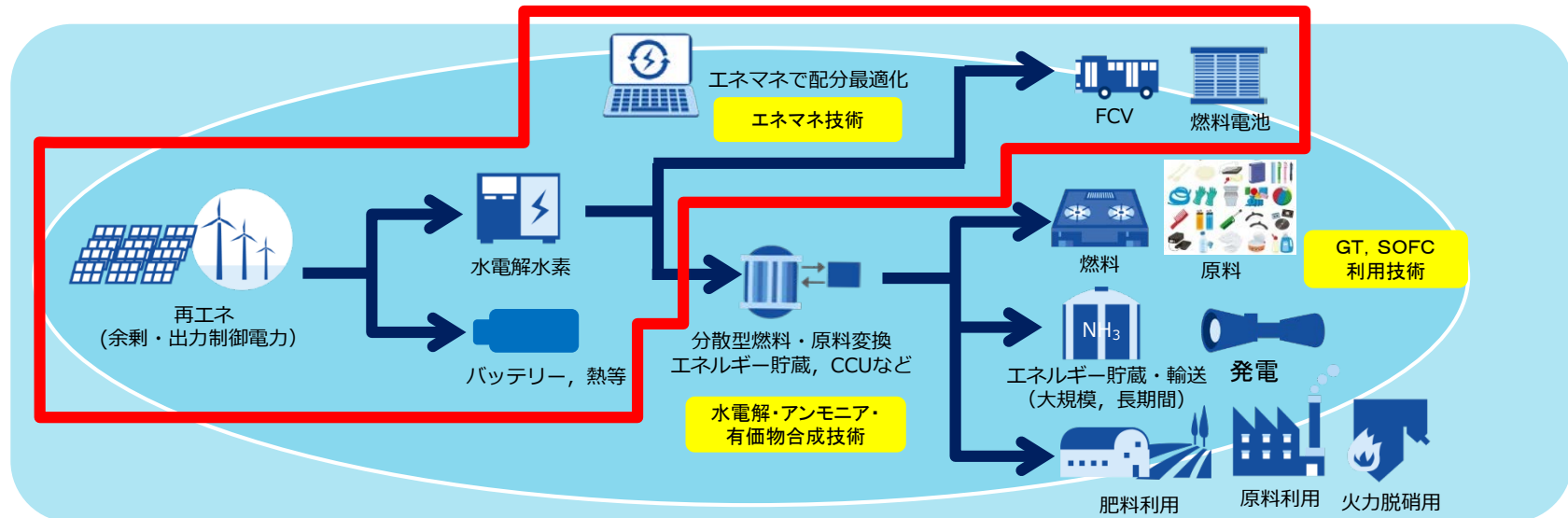
※4：ROE(自己資本利益率)＝親会社株主に帰属する当期純利益／(前期末・当期末平均 自己資本)

国内初、複数の再生可能エネルギーを同時制御する 「水電解活用型エネルギーマネジメントシステム」を開発

IHIは、株式会社北九州パワー、北九州市、福岡県、福岡酸素株式会社、ENEOS株式会社とともに、福岡県北九州市響灘地区において、地域の再生可能エネルギー（以下「再エネ」）を有効活用し、CO₂フリー水素の製造・供給の実証事業（以下「本事業」）を開始します。本事業では、太陽光、風力、ごみ発電（バイオマス）など、複数の再エネを同時に制御可能な「水電解活用型エネルギーマネジメントシステム」の国内初となる実証とCO₂フリー水素サプライチェーンの構築を目指す実証を行ないます。

本事業において、IHIは複数の再エネ電力から水電解装置で効率よく水素を製造するための、エネルギーマネジメントシステムの開発・運用を行ないます。近年、分散型エネルギーが注目されていますが、再エネ電力を電力としてだけではなく水素としても利用し、さらには燃料・化学原料などにも変換して地域で効率的に利用する、Power to Xの技術が本事業にとって重要となります。IHIは、これら要素技術・システム化技術を、関連企業とともに構築しつつ、実証によって確立するモデルを全国展開することを目指します。今後も、分散型エネルギーやカーボンリサイクル、水素・アンモニアに関するソリューションにより脱CO₂・循環型社会の実現に貢献してまいります。

IHIが目指すPower to X と響灘地区での実証範囲（赤枠）



小惑星探査機「はやぶさ2」プロジェクトに貢献

IHIのグループ会社である株式会社IHIエアロスペース(以下「IA」)と明星電気株式会社(以下「明星電気」)が開発に携わった、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下「JAXA」)の小惑星探査機「はやぶさ2」が、約50億キロメートルの航行を終え、12月6日、そのカプセルが地球に帰還しました。今後も、これまでに培った技術を生かして宇宙開発に参画し、人類の夢の実現と社会の発展に貢献してまいります。

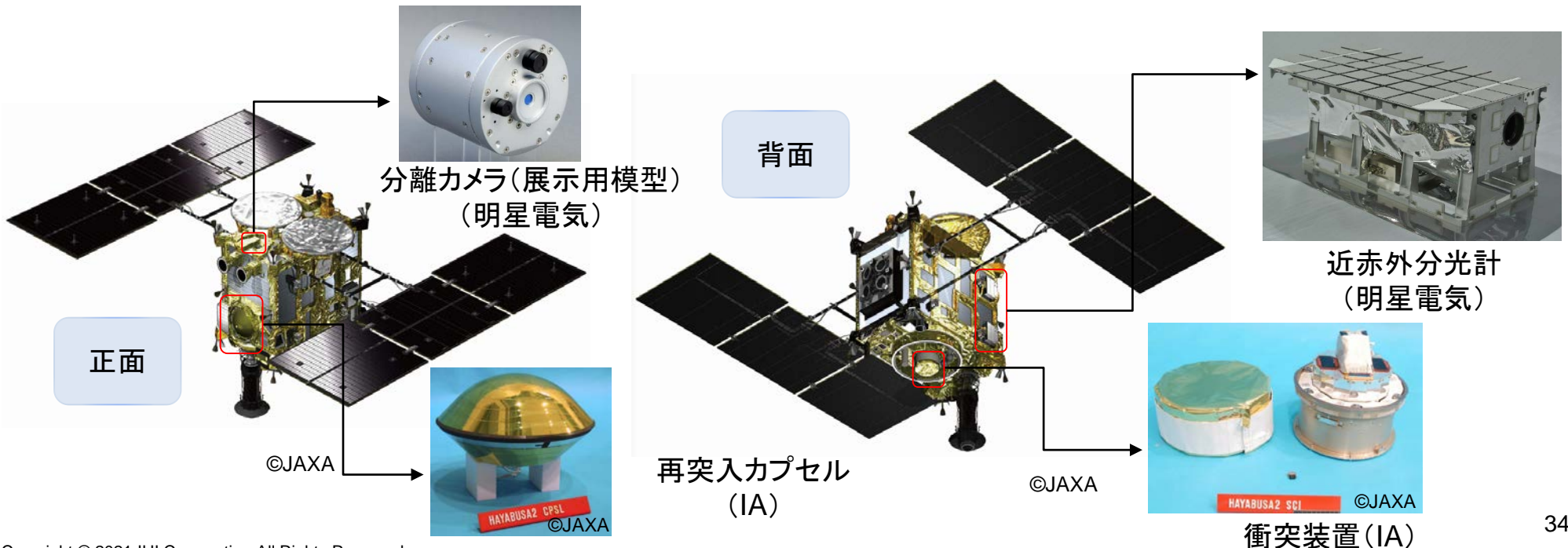
◇「はやぶさ2」におけるIHIのグループ会社各社の役割 ◇

- IA:

カプセルの開発に参画し、過酷な熱環境からサンプルを守るヒートシールド、減速して着地するためのパラシュートを放出する機構の開発・製造などを担当。カプセル以外にも、地中のサンプルを採取するために小惑星表面へ金属塊を衝突させ人工クレーターを生成する、衝突装置の機械系開発やインテグレーション支援も担当。

- 明星電気:

衝突実験の状況を撮影する分離カメラ「DCAM3」に内蔵される理学観測用カメラ(デジタル系)や、水の存在を調査する近赤外分光計「NIRS3」を開発。



(1) 民間向け航空エンジン: 連結売上高推移

(億円)

	実績								見通し	
	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
							3Q累計	通期	3Q累計	通期
売上高	2,260	2,670	2,991	2,915	2,810	3,185	2,081	3,331	733	900

(参考) 収益認識会計基準適用影響を除いた実績:

1,317

(2) 民間向け航空エンジン: 累計販売台数

(台)

	実績(累計)										主要搭載機
	'11	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19	'20/3Q	
V2500	4,980	5,468	5,969	6,469	6,896	7,236	7,508	7,688	7,735	7,738	エアバス A319/320/321
GE90	1,399	1,589	1,806	2,039	2,257	2,457	2,617	2,715	2,824	2,875	ボーイング B777
CF34	3,242	3,548	3,820	4,156	4,471	4,821	5,085	5,331	5,611	5,757	リージョナルジェット (70~110席級)
GEnx	118	259	468	751	1,035	1,295	1,542	1,826	2,159	2,295	ボーイング B787/B747-8
PW1100G					16	148	398	1,058	1,784	2,054	エアバス A320Neo
Passport20							13	66	142	182	ボンバルディア社 Global7500
合計	9,739	10,864	12,063	13,415	14,675	15,957	17,163	18,684	20,255	20,901	

(注) 販売台数は、機体メーカーに引き渡した台数であり、工場出荷台数とは異なる

<地域別連結売上高推移>

(億円)

	実績										見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
								3Q累計	通期	3Q累計	通期
日 本	339	353	375	346	389	398	446	292	391	250	340
ア ジ ア	248	298	275	216	158	117	110	78	107	56	80
中 国	181	234	243	249	485	719	631	464	593	533	640
北 米	13	16	18	24	33	84	116	81	108	69	100
中 南 米	0	0	7	34	61	74	75	49	66	41	60
欧 州	432	602	756	743	617	811	513	220	289	138	200
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
合 計	1,216	1,507	1,677	1,616	1,746	2,205	1,895	1,188	1,557	1,089	1,420

(1) 豊洲地区 賃貸収入の実績推移

(億円)

	実績										見通し
	'12	'13	'14	'15	'16	'17	'18	'19年度		'20年度	
								3Q累計	通期	3Q累計	通期
賃貸収入	92	91	93	101	93	92	93	71	94	92	123

(2) 豊洲地区 賃貸収入, 賃貸費用実績(当期)

(億円)

	賃貸収入	賃貸費用		差額
		減価償却費	その他	
'20年度3Q	92	31	26	35

豊洲1~3丁目地区 開発マップ

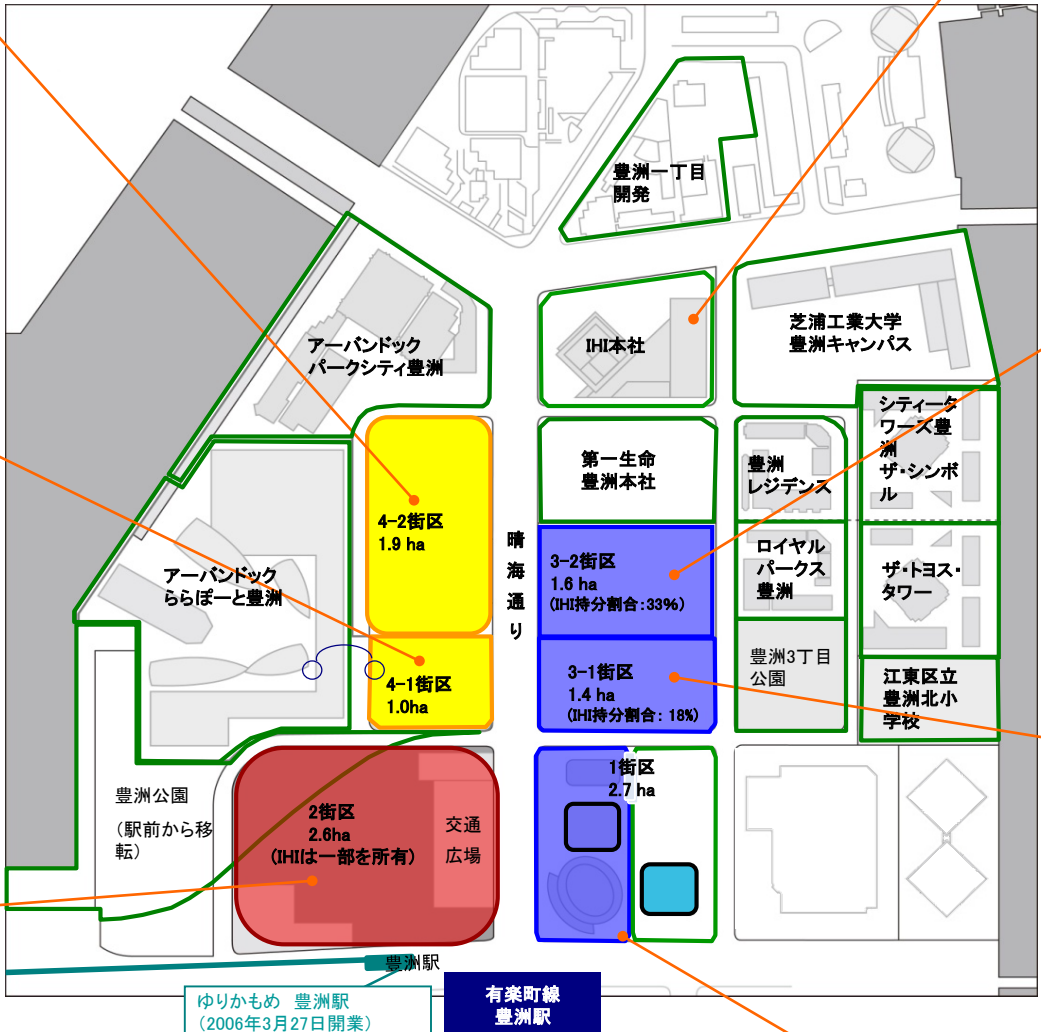
幼稚園、保育園、カフェ、結婚式場
敷地面積：19,492㎡
2010年3月～2011年2月竣工



アーバンドック ららぽーと豊洲ANNEX (三井不動産)
地上5F, 高さ約25m, 延床面積：24,721㎡
2006年10月開業



豊洲ベイスайдクロスタワー (AC棟) (IHI, 三井不動産)
地上36F, 高さ178m, 延床面積約185,000㎡
2020年3月竣工

豊洲IHIビル
地上25F, 高さ：約125m, 延床面積：97,617㎡
2006年2月竣工



豊洲フォレシア (IHI, 三菱地所 (SPC))
地上16F, 高さ：約75m, 延床面積：101,503㎡
2014年7月竣工



豊洲フロント (IHI, 三菱地所 (SPC), 三菱UFJ信託銀行)
地上15F, 高さ：約75m, 延床面積：106,861㎡
2010年8月竣工



シビックセンター棟：2015年9月開業
消防署棟：2016年6月竣工

IHI所有地	約5ha
--------	------

- 建物賃貸
- 土地賃貸
- 建物賃貸(借地)
- 第一種市街地再開発事業 ※1
- 売却・寄付・交換済

豊洲センタービル
地上37F, 高さ：約165m, 延床面積：100,069㎡
1992年10月竣工

豊洲センタービルアネックス
地上33F, 高さ：約150m, 延床面積：105,448㎡
2006年8月竣工

※1 都市再開発法で定める手法の一つ

IHI

Realize your dreams

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの業績見通しのみにより投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際に業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。実際の業績に与える重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く政治、経済情勢、対ドルをはじめとする円の為替レートなどがあります。